

学校保健委員会(全・定合同)

を開催しました。

期 日 令和2年2月26日(水) 14:00～

出席者 学校医(耳鼻科) 渡部雄二先生

学校医(眼科) 福島伊知郎先生

学校歯科医 藪本 修先生

学校役員(校長をはじめ13名)

全日制・定時制の養護教諭から、定期健康診断の結果と課題、保健室来室状況等について報告があり、出席さ

れた医師より、診断結果に関する傾向や課題について説明等をいただきました。



○耳鼻科の渡部医師

県や全国に比べてアレルギー性鼻炎の所見が多いのは、軽度の症状の生徒にも、受診が必要なレベルの生徒にも通知を出しているためだと考えられる。検診をするからには、軽くても症状のある生徒にはお知らせをするべきだと思う。一時的な花粉症と思っている生徒の中には通年症状のであるアレルギー性鼻炎に移行している生徒もいる。

○眼科の福島医師

斜位が多い（内・外合わせて約4割）という報告であったが、見た目ではわからないし本人も自覚していないが、少しでも症状があるようならば受診するように通知を出している。所見のあった生徒全員に治療が必要とは限らないが、注意してほしい。アレルギー性結膜炎については、受診中の生徒には通知は出しておらず、症状があつて未受診の生徒へ受診を勧めている。

○歯科の薮本医師

本校の生徒は虫歯が少ない。東広島市では、幼少期から各段階で検診を行い、ブラッシング指導等をしている成果であろう。スポーツデンティスト（歯科医師の立場からスポーツにかかわる健康管理を行う）の立場から、中学・高校の部活動で歯を折るケースが増えている。硬式野球など他の競技においても、ラグビーのようにマウスガードを装着した方がよい。

※非常に有益な意見をいただきありがとうございました。今後の学校保健に活かしてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。